

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東京の隣の^{とまり}隣の、あるまちの小学校へ行くことになった。P
TAのお母さんたちに話をしてくれというのである。□ I 前
の仕事がのびて、遅刻^{ちかく}しそうになった。道をきいた人が正門へ
まわると遠くなる、裏門を入れて運動場をつつ切って行くこと早
い、と教えてくれた。

放課後のグラウンドには、もうあまり子どもはいなかったが、
それでも、※三々五々、何かして遊んでいる。こちらはそんな
ことに気をとられてはいられない。急がなくては…:…と思っ
ていると、

「こんにちは」

「こんにちは」

というかわいい声が聞こえた。こちらをお客さんだと見てとつ
て、挨拶^{あいさつ}してくれたのだとわかると、何とも言えないさわやか
な気持ちになった。きてよかった。

すこし行くと、またほかのグループの子どもが、同じように
挨拶をする。こちらも□ II はずんだ調子で、お返しをした。
子どもたちはくつたくなさそうに明るい表情をしている。

お母さんたちを前にした。※話のまくらに、いまあったことを
もち出して、こういう学校のお子さんなら、何も申し上げるこ
ともないのですが…:…とやったら、お母さんたちがうれしそう
に笑った。

この小学校では、外来のお客さんには、挨拶をすることにな
っているであろう。① いちいちやかましく言われなくても、
それが当り前^{あたりまえ}になっている。□ III、裏門から入ってきて運動
場を歩いているような人間であっても、よその人なら挨拶をす
るのである。

いわば条件反射のようになっていのに違^{ちが}いない。だまっ
ていると気持ちが悪い。おちつかなくなる。かりに万一よからぬ
目的で校門へやってきたものがあっても、ああいうかわいい声
で歓迎^{かんげい}されては、心を改めるかもしれない。

上級生がやってみせていれば、下級生は別に教えられなくて
も、見よう見まねで同じことをするようになる。先生の目より
子ども同士の目の方がずっとこわい。挨拶をしないでいれば、
仲間の目が光る。

こうして、いつのまにか、一つの気風、しきたりができる。
児童には□ IV 当り前の風になっているのだらうけれども、外
から来たものは、新鮮^{しんせん}な※感銘^{かんめい}を覚える。この学校にはりつぱ
な校風があると思う。

学校は先生と授業で教育するが、それだけではない。目に見
えない空気が、教室の勉強におとらぬ教育をする。そのことに、
親はもちろん、教師自身も気づいていないのは不幸である。

薫陶^{くんとう}というのは、そういう空気によって、いつとはなしに
※感化^{かんか}されておこる教育の効果で、精神のもっとも深いところ
に達する。② □先^{さき}だけの教育の比ではない。

空気が大切なのは学校だけではない。空気がもつともつよく
ものを言うのは家庭であろう。

はじめての家を訪問する。部屋に案内されて、お茶が出る。
ふたことみことばを交^かわすころには、その家がどんな家か、
だいたいの見当がつく。別に様子をきいているわけではなくて
も、何となくこんな家庭らしいということが、わかる。感^{かん}じで
ある。雰^{ふん}囲^い気である。

これがその家庭にたよっている空気によって生じているこ
とははっきりしている。しかし、外来者がやってきて、五分か
十分で感じとる空気は、いわば、周辺部を吹^かいている風でしか

ない。家族が毎日お互いに意識しないで呼吸しているのはもつと深部の、濃密な空気である。こどもはその空気を吸って、ものごころをつけ育つ。

【A】いかにりっぱな家に住んでいても、空気が欠けていけば、何にもならない。悪い空気が充滿しているのなら、脱出、「転地」をしなくては、心が病み出すであろう。

【B】空気だから、どんな形をしているか、見ることはできない。しばらくその中にいれば、空気のあることすら忘れてしまう。しかし、この空気が心をはぐくみ、人間を人間らしく育てあげる。空気による教育はもつとふかく根源的である。

【C】何ごともモノとカネで片がつくと考えているらしいいまの私たちは、このことを見落としがちである。いくら学校の建物をりっぱにしても、家に勉強部屋をつくってみても、本や勉強の道具をいくら買い揃えてみても、それだけではりっぱな教育はできない。

【D】もちろん、それだけではなく、しつけもしっかりしているという家庭もある。しかし、ただ口で言っているだけではきき目がうすい。※四六時、こどもをすっぽり包む空気の力にはとても及ばないだろう。

【E】きいた話だが、柔道で空気投げというわざがある、という。何もしないのに、相手が飛んでいくのが空気投げらしい。柔道の極意は力を加えずして、わざをきかすところにあるのだから。

年寄りのいない家庭が多くなった。昔から伝わっていた家風という空気が切れてしまっている。人間の生きるところではかならず空気ができ、それによってそこに生きる人たちの精神が形成されるという道理も※ともすれば見失われがちである。

③ 空気の教育は消滅しようとしている。

それにかわって、形式的教育が栄えている。いまの家庭が学校のこと熱心なことはおどろくほどである。関心のあることは結構だが、すこし方向がおかしくはないか。

点数にこだわる、成績に目の色を変える、塾へやる、家庭教師はつける。そして、いいのいいようなこどもにしたがっている。

これはペンキ教育である。中はどんなでもいい。ペンキをぬれば、きれいに見える。現代の教育はペンキのぬり方ばかり気にしている。そしてペンキはすぐはげること考えない。はげたら、またぬるつもりだろう。

空気の教育は、ペンキ教育のように目先の変わりばえがしない。地味である。なにごともしつつかちな世の中だから、じわりじわりの空気による薫陶なんかを待っているより、べたべたペンキをぬった方が、手取り早い、となる。

世間がたとえそうでも、すくなくとも、家庭では空気の教育をしなくてはならない。ペンキぬりを教育だとか、しつけだとか誤解しないことだ。

（外山滋比古 『空気の教育』 一部改変）

※（文中のことばの意味）

三々五々 … それぞれに。

話のまぐら … 前おきの話。

感銘 … 心に深く感ずること。

感化 … 他に影響をあたえて、態度や心がけなどをかえさせること。

四六時 … いつも。

極意 … 最高の技術を得るための最も重要な事から。

ともすれば … どうかすると。ひよっとすると。

問1 I IV にあてはまることばとして最もふさわしいものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア あいにく イ たとえ
ウ ほとんど エ いくらか

問2 あるまちの小学校の出来事を述べることで、筆者はどのようなことを伝えようとしているのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勉強ができることよりもきちんと挨拶できることの方がこどもには大切だということ。
イ 大人が口うるさく教えなくてもこどもは自然に何でもできるようになるということ。
ウ こどもは知らない間に学校のしきたりの影響を受けて育っているということ。
エ 見知らぬ人に挨拶できるといურიつばな校風がどの学校にも必要だということ。

問3 線①「いちいちやかましく言われなくても、それが当たり前になっている」とありますが、これと同じような意味を持つ二字のことばを文中からぬき出しなさい。

問4 線②「口先だけの教育」とありますが、これと同じような意味を持つことばを、ここよりあとの文から二つぬき出しなさい。

問5 文中から次の段落がぬけています。 A E のうち、どの段落のあとにあてはめるのがふさわしいですか。記号で答えなさい。

空気の教育も、それと同じである。一見、何もしていないように見えるかもしれないが、じつは外形だけにこだわった、いわゆる教育よりもはるかにすばらしいことができるのである。

問6 線③「空気の教育は消滅しょうめつしようとしている」とありますが、なぜですか。文中のことばを使って、四十五字以内で答えなさい。句読点などは字数に数えます。

問7 にあてはまることばとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 見た目 イ 頭 ウ 性格 エ 調子

問8 本文を大きく二つに分けた場合、後半はどこからはじまりますか。はじめの五字をぬき出しなさい。

問9

——線④「家庭では空気の教育をしなくてはならない」とありますが、「空気の教育」は人間をどのように育てあげるのでですか。二十字以内で答えなさい。句読点などは字数に数えませぬ。

問10

本文の内容に合うものを次の中から二つ選り、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 学校における「空気の教育」は、上級生が下級生にしたりを教えることで受けつがれるものである。
- イ 家庭にはその家庭の「空気」があり、少しの時間家を訪ねただけでその家の「空気」が感じられる。
- ウ いくら道具を買いそろえても、しつけがしつかりとしていなければりつばな教育だとはいえない。
- エ いまの家庭はこどもの教育に熱心だが、すぐに効果が出ることばかりを求め、方向を間違えている。
- オ 現代の教育に必要なのは、地味であつてもじつくりと成績をあげて自信をつけさせる教育である。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

親の仕事の都合でオーストラリアに移った少年・真人（マツト）。学校では、日本から来て英語がうまく話せない真人を、エイダンが馬鹿ばかにしてからかってくる。真人は負けじと反撃はんげきし、エイダンとはけんかばかりしていた。なじめない日々が続いたが、好きだったサッカーをきっかけに少しずつ友だちができた。言葉も、英語で話すほうが楽に感じてきた。ようやくオーストラリアでの生活に慣れ始めたころ、母親は真人に日本語の勉強を続けさせるため、大好きだったサッカークラブをやめさせた。真人は自分の気持ちをわかってくれない母親に不満を感じている。

※リーディング・リカバリーと英語のクラスは、※ランチタイムの前にある。図書室に、※ランチボックスを持って行って、ベルがなったらその場で食べてもいいことになってる。その日もぼくは、いつもどおりサンドイッチを広げて食べ始めた。エイダンはなんにも持ってこなかった。水筒すいとうの水をがぶ飲みして、つまらなそうに、本を机の向こうにおしやって、うつぶした。ウイルソン先生が、外で遊んでらっしゃい、ってエイダンに声をかけたけど、エイダンはびくりともしなかった。目を開いたまま、**I** みたいになってる。片方のほつぺたを机の上に押しつけたまま、**①** おまえさ、こっち引越してきて、どうだった？ ってエイダンがとつぜんきいてくる。どうって？ って今までされたことのない質問にとまどっている、

「おれさ、アメリカにいたとき学校でもどこでも、みんなから、おまえ、どこから来たんだってきかれて、うざかった。しゃべり方が田舎いなかくさいって言われた。そのうち、きかれなくなっ

ほつとした。なあ、おまえ、知ってるか？ アメリカじゃ、※フッティなんかやらないんだぜ、あつちは野球なんだ！ 父さんと一緒に野球見に行ったんだ、すげえ楽しかったな。リトルリーグにも入ってき、けっこう気の合うやつもいてさ。でも、こっち帰ってきて、またどこから来たんだってきかれる。ヘンなしゃべりかたするな、ってさ。うざい」

ぼくはしゃべらなくても、お店とかで、どこから来たんだってたまにきかれる。オーチャード・クリークですって答える、そうじゃなくて、本当はこの国から来たんだってき直される。なんだ、そういう意味かって思って、日本って答えるけど、いちいちうつとうしい。

「ランチ、食べないの？」

エイダンは、ランチ忘れた、ってつぶやいた。この前も、先生にそう言った。

「母さん、赤ん坊あかごで忙しい。忘れるんだ、おれのランチ」

「赤ん坊？」

「ずつとビービー泣いてる。あんなやつ、妹なんかじゃない。あんなチビ、嫌きらいだ」

エイダンはフンって鼻を鳴らした。母さんはおれがジャマだから、アメリカの父さんのところへ行かせてたんだ。いつも父さんの悪口ばかり言ってたのにさ、急に、お父さんのところへ遊びに行けとかなんとか。帰ってきたら、あのチビがいた。

おれより、新しいボーイフレンドと新しいチビがいいんだ。

ぼくはだまりこんでランチを食べようとした。でも、エイダンは元気なさそうで、でも、なにを言っているのかわからないので、**②** サンドイッチを半分にちぎって、エイダンの目の前に差し出した。エイダンは、ぼくをじっと見て、あたりをきよるきよる見回すと、ぼくの手からすばやく取って口に放り込んだ。

お母さんの得意のフルーツサンドには、たつぷりの生クリームのなかにフルーツがいっぱいはいったのが挟まってる。エイダンが③見たことないような驚いた顔をして口をもぐもぐ動かした。驚いた顔はだんだん、眉が下がって、鼻の穴が膨らんで、上のくちびるも下のくちびるも上向きに丸くなって、ほっぺたが

Ⅱ みたいにポコポコ踊る嬉しそうな顔にかわった。いつもまわりの人と空気をにらみつけるようにして歩いているエイダンしか知らなかったから、ぼくはちよつとびっくりだった。おまえの母さんが作ったのか？ って、こつちが聞いたことないような不思議そうな、照れくさそうな声を出すから、そうだよって、ますます膨らんでいくびっくりをひた隠しにして、なるべくふつうに答えたら、おまえんち、スシばかり食べてるんだと思ってた、おまえの母さん、マジ料理うまいんだな、いいなあ、って最後のところを口に押し込んだ。小指についていたクリームまで舌で念入りになめた。「いいなあ」っていう最後のところの音がものすごく甘えていて、それを聞いたとたん、④ぼくはそれ以上食べられなくなって、手にしていた残りの半分も、口を動かしながらそれをじつと見ていたエイダンにあげた。

翌日のランチタイム、エイダンは売店でチキンヌードルをオーダーしていた。ぼくも食べたことがあるけど、あんなにまずいチキンヌードル、食べたことがない。ぼくとターミナがランチを食べているところへ、チキンヌードルを両手で持ったエイダンがやってきた。おまえら、つきあってんのか、ってぼくらをからかう。エイダンの言葉にひっかかって、頭に来て、トラブルになるっていうのはもう何回も経験済みだから、ぼくは相手にしなかった。

ランチを食べ終えて、校庭でジェイクやケルヴィンやノアを

探そうとしたら、エイダンがやってきた。おもしろいことやろうぜ、ってぼくを誘う。こいつのおもしろいことは、たいていヤバイからどうしようかと思っただけど、⑤ひとりであのまずいチキンヌードルをすすっていた姿がちよつとひっかかっている、とりあえずついていく。ふたりに男子トイレの便器のぜんぶにトイレットペーパーをありったけつつこんで、水を流す。水があふれ出す。床中水浸しになって、トイレに入ってきた三年生くらいのやつが「げえーっ！」って叫んで、出て行く。エイダンとぼくも逃げる。

ランチタイムがおわるベルが鳴ると同時に、校長室で怒られる。いつもは、どつちがどつちに先になにしたって言い合いはじめまるけれど、今日は、男子トイレを水浸しにしたのは君たちかって校長先生にきかれて、ぼくらは、Yes、って同時に答える。⑥いつもだったらエイダンはぼくのせいにはっきりするの。

おもしろいことをぼくらは繰り返す。一年生の男の子のランチボックスをぼくがひったくって、エイダンが校舎の屋根の上に投げる。一年生が校庭とその上の青空をつんざくような大声で泣いて、見回りの先生が飛んでくる。校長室に呼ばれる。その男の子のお母さんが来ていて、こんな悪い子がいる学校にうちの子を通わせられません、ってすごく怒る。間もなく校長室に呼ばれたぼくのお母さんがすみません、よく言っただけです、っていつもどおりあやまる。エイダンのお母さんは来ない。

※メンテナンスのピーターの自転車のタイヤにエイダンがカッターナイフを突き刺す。ぼくはだまってそれを見ている。あのじいさんがなんで自転車にしか乗らないか知ってるか？ ってエイダンがきく。ぼくは知らない、って答える。あいつ貧乏すぎて、たぶん車を買えないんだよ、いつも同じボロい服ばっか

きてるじゃん、汚いジジイ、ってバカ笑いする。午後、全校集
会でピーターの自転車をパンクさせた愚か者がいるって校長先
生が顔を真っ赤にしている。出てきなさい、今すぐ！ もう cross
(腹を立てている) じゃなくって angry (激怒) になつてた。

エイダンにはニヤニヤ笑ってる。ぼくはみんなが帰ったあと校長
室に行つて、エイダンがやりました、って校長先生に言う。な
ぜ、きみが知っているのかときかれて、そばで見えました、っ
て答えると、今までみたことのないような悲しそうな顔をされ
て、マツト、きみにはがっかりさせられた、って言われた。

⑦ 先生が言った disappointed (失望) に平手打ちされてぼくは校
長室を出る。

次の日、エイダンとエイダンのお母さんが校長室の外で激し
い言い合いをしていた。言っちゃいけない言葉をありつたけ使
つて、エイダンがお母さんに吠えてた。エイダンのお母さんの
片腕に、**III** みたいに小さい赤ん坊が挟まっつていて、手
足をバタバタさせて火の付いたように泣いていた。エイダンが
赤ん坊に飛びかかろうとして、校長先生とオキーフ先生があわ
せて止めに入る。

「I hate you! (母さんなんか、大嫌いだ!)」

ってエイダンが体を揺すりながらわめく。わめき声がひきま
ずるような泣き声にかわつた。⑧ I hate you がエイダンを滅多切
りにしている。いちばん言っちゃいけない言葉だつて、エイダン
は自分でわかつていて言つてると思う。ぼくもそうだから。

(岩城けい 『Masato』 一部改変)

※(文中のことばの意味)

リーディング・リカバリー : 英語の音読の補習授業。

ランチタイム : 昼食時間。

ランチボックス : 弁当箱。

フッティ : フットボール。スポーツの一種。

メンテナンス : 建物や設備を維持管理する人。

問1 **I** **III** にあてはまることばを次の中から一つず

つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 死んだ魚
- イ ロボット
- ウ 人形
- エ ピンポン球

問2 線①「おまえさ、こっち引越してきて、どうだ

つた？」とありますが、具体的に何をたずねているのですか。

最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言葉をうまく話せなくて困らなかったかということ。
- イ 日本の友だちとはなれてさびしくなかったかということ。
- ウ 何度も出身をきかれるのは嫌じゃなかったかということ。
- エ 慣れない国での生活にうんざりしなかったかということ。

問3 ———線②「サンドイッチを半分にしちぎって、エイダンの目の前に差し出した」とありますが、この時の「ぼく」

の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自分だけランチを食べているのが申し訳ない気持ち。
- イ 沈んだ様子のエイダンに何かしてあげたい気持ち。
- ウ ランチを持っていないエイダンをねぎらう気持ち。
- エ 母が作ったランチをエイダンに自慢したい気持ち。

問4 ———線③「見たことないような驚いた顔をして」とあ

りますが、エイダンは何に驚いたのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「ぼく」がスシではなくサンドイッチを食べていること。
- イ 仲が悪いのに「ぼく」がサンドイッチをわけてくれたこと。
- ウ サンドイッチに生クリームとフルーツが入っていること。
- エ もらったサンドイッチがあまりにもおいしいこと。

問5 ———線④「ぼくはそれ以上食べられなくなつて」とあ

りますが、なぜですか。その理由を説明した次の文の a～d にあてはまることばを、それぞれ指定された字数で文中からぬき出しなさい。

普段は a 25字 エイダンが、自分があげたサンドイッチをうれしそうに食べ、 b 12字 まで大事になめて、 c 7字 た声で d 4字 「とうらやましがったから。」

問6 ———線⑤「ひとりであるはずいチキンヌードルをすす

っていた姿がちよつとひつかかかっている」とありますが、この時の「ぼく」の気持ちとして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 優越感
- イ 同情
- ウ 不快感
- エ 興味

問7

——線⑥「いつもだったらエイダン**は**ぼくのせいには
わかりするの**に**」とありますが、今回エイダンがぼくのせ
いにしなかったのはなぜですか。最もふさわしいものを次
の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつもはけんかで呼ばれていたが、今回は悪いことだと
わかって二人でやったことだから。

イ 今回はいつもとちがい自分が誘ってやったことなので、
「ぼく」は悪くないと思ったから。

ウ ずっと仲が悪かったのに近ごろ優しくしてくれるので、
「ぼく」をかばおうと思ったから。

エ 何度も呼び出されて怒られていたので、校長先生に怒ら
れても怖くないと思っていたから。

問8

——線⑦「先生が言った **disappointed** (失望) に平手打
ちされて」とありますが、どういうことですか。最もふさ
わしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア エイダンを止めてあげられなかったことが、自分でもゆ
るせないということ。

イ 自分がやったことは悪いことなのだと、この時初めて気
づいたということ。

ウ 校長先生が悲しそうに「ぼく」をたたいたことが、ショ
ックだったということ。

エ 校長先生をがっかりさせたことが、「ぼく」にはつらい
ことだったということ。

問9

——線⑧「I hate you がエイダンを滅多切りにしてる」
とありますが、どういうことですか。最もふさわしいもの
を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「大嫌い」と言ってしまったことで、母親に対するエイ
ダンのいらだちが、さらに高まっているということ。

イ 決して本心ではないので、「大嫌い」と言ってしまった
ことが、余計にエイダンを傷つけているということ。

ウ 「大嫌い」という本音を思わず言ってしまったことで、
エイダン自身が、よりつらくなっているということ。

エ ますます母親に嫌われてしまうので、「大嫌い」と言っ
てしまったことは、エイダンの失敗だったということ。

問10 この文章から読み取れる「ぼく」と「エイダン」の関係を説明したものととして最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつもけんかばかりしては一緒に怒られていたが、エイダンは仲良くなるうと自分に近づいてくる「ぼく」を、親友だと認めていた。

イ 以前はおたがい嫌いでぶつかる相手だったが、悪いことでも断らずにやってくれる「ぼく」に安心し、エイダンは心を開きはじめた。

ウ あまり一緒にいたくない相手だったが、「ぼく」は母親を困らせたエイダンの気持ちに同調し、二人で悪さをするようになった。

エ 表面上は対等につきあっていたが、母親にかまってもらえずいたずらばかりするエイダンを、「ぼく」は心の底でばかにしていた。

三 次の各問いに答えなさい。

① 次のア～エの□にあてはまる漢数字をすべて足すといくつになりますか。算用数字で答えなさい。

ア □石 □鳥 イ 石の上にも □年
ウ □朝 □夕 エ □日坊主

② 次の文の□にあてはまる最もふさわしいことばを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

□の額ほどの庭

ア 狼おおかみ イ 狐きつね ウ 猿さる エ 猫ねこ

③ 「拡大」の反対語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 縮少 イ 収縮 ウ 短縮 エ 縮小

④ 「新発売」と同じ組み立ての熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 総選挙 イ 建造物 ウ 衣食住 エ 指導者

⑤ 慣用句の使い方として正しいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア せっかく手に入れた大金を水に流す。
イ 二年生になって制服が板についてきた。
ウ 根も葉もない食べ物は体によくない。
エ うまく泳げるように尾ひれをつける。

四 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

① 彼女の写真集がゼツサンかつじよされている。

② 適切なシヨチしよちをほどこす。

③ キビしい練習に耐えるた。

④ お客様にセイジツせいじつに対応する。

⑤ 一日一ゼンいちにちいぜんを心がける。

⑥ 町内で連絡を回覧れんらくする。

⑦ 難関なんかんを突破する。

⑧ 直ちちかに出発だ。

⑨ 小春日こはるひ和。

⑩ 野党のたうが結集する。

これで問題は終わります。